



## マンスリーレポート

report

### report

■2007年5月のマンスリーNEWS

#### ■コラム

#### ■自販機コールドへの切り替え予定

そろそろ夏本番への準備になります。我々のシーズンがやってきます。今までにもまして、売り切れによるチャンスロス撲滅、清潔な空缶入れ、清潔な自販機ということにこだわってやっていきますので今後ともよろしくお願いします。

切り替え予定としては

6月10日までオールコールドをアークル全台数の70%

6月20日まで全て自動販売機をオールコールドに！

今年は特に500ペットに力を注いで行く予定です。

今回は夏場最盛期に向けて小田原・海老名両営業所から意気込みを伝えるために写真を添付いたします。

小田原営業所の面々



海老名営業所の面々



#### ■コラム

#### ■MIUピュアウォーターを飲んでみた!

いきなり、変な題名ですいません。

なぜこのような題名のコラムかと言うと私個人的に海洋深層水があまり好きではなかったのですが、リニューアルをきっかけで飲んでみようと思ったのです。なぜあまり好きではなかったかと言うと、単純に飲みにくかったからです（硬度の高いので苦手ということ）。



ただし今回はダイードリンコがとても力を入れて販売すると同時に、随分飲みやすさにもこだわったということで、試しに飲んでみました。感想はびっくりです。驚きました。今までのイメージが一掃されるような出来だと思いました。

まずミネラル分の硬さは微塵も感じられません。つまり本当に飲みやすく仕上がっています。

先日、ダイードリンコの商品開発の担当のO氏と話す機会がありこのMIUピュアウォーターの開発コンセプトを聞くことが出来ました。まずこのMIUはどのように出来ているのでしょうか。

高知県の室戸沖で取水された海洋深層水をRO膜（逆浸透膜）で完全の濾過します。この時点で海の水が純水になります。次に海洋深層水から取ったミネラル分を加えていきます。カルシウム・マグネシウムミネラルのほかに微量元素などの人体では生成できない70種類以上のミネラルがあるとされています。

このときのミネラルの配合分量で水の硬さが決まってくるようです。今回は今までのものよりミネラル分の配合分量をおさえ、硬度80に設計したそうです。これは「飲みやすさ」と「機能」を両方追及した結果の設計だそうです。

海洋深層水と言うと2~3年前のブームで終わった感があるかもしれません。しかしダイードはあくまでも海洋深層水をブームで終わらせるのではなく、ミネラルウォーターの一定番商品に育て上げたいと開発担当者は熱く語っていました。

## (ダイードリンコさんへの提言)

ダイードリンコはいつもこだわりを持って商品を出していきます。その証拠にコーヒーは全て無香料しているのは飲料メーカーでダイードリンコだけでしょう。

このMIUピュアウォーターも同じで海洋深層水だけでこだわって、ミネラルウォーター市場に対応しようとしています。これは非常に危険なことで、一般消費者のニーズをあまりにも無視したやり方です。

なぜなら消費者の水に求めるニーズは「価格」「飲みやすさ」「健康感」「安全・安心」「デザイン・ブランド」などです。つまり海洋深層水じゃなきゃダメという消費者はあまり多くなく、今挙げたニーズを満たしている商品が欲しいわけです。

私達はダイードの商品を愛し大切に扱っている業者として、もう1品消費者のニーズを捉えた新しいミネラルウォーターの開発を心待ちにしています。

ダイードさん、期待していますよ。

### ■コラム

## ■今の中国をどう見る？

当社の一部の社員に中国株投資をしている人達がおられます（Mさん・Kさんなど）。随分良い思いしているようで最近ニコニコしています。なぜ、彼らはニコニコ出来るのでしょうか？それは今中国で何が起きているのか？を研究すれば答えがみつきりそうです。

まずは4/20の日経のニュースをご覧ください。

### 中国、追加引き締め検討 株価・景気に悪影響も

中国政府は1~3月の成長率が11.1%の高水準になったことを受け、追加引き締め策の検討を始めた。景気の過熱と資



北京の四環路の外側に建設中の新築マンション今、北京では新築マンションラッシュ！

産バブルの破裂を未然に防ぐことを目指す。ただ引き締め効果が強すぎると景気急減速や株価急落を招く恐れがある。中国政府は景気の現状に警戒感を持ちながら思い切った措置を打てないジレンマの中にある。

温家宝首相は19日に中央政府会議を開き、当面の経済政策を指示した。固定資産投資の増加を抑え、通貨供給量と銀行融資の増勢を和らげることが柱。

スタンダードチャータード銀行のエコノミスト、ステイブ・グリーン氏は「年内に0.27%の利上げがあと2回ある。しかし、この程度ではインフレを抑えるのは難しいが、大規模な利上げは人民元高や景気減速を招きかねない。」と指摘。2004年春に投資が過熱したときは鉄鋼やセメントなどの業種に的を絞って工場新增設にブレーキをかけた。06年も夏ごろから新たな建設計画の認可を厳しくするなどして12月の都市部の固定資産投資の前年同月比の伸びが13.8%まで落ちた。しかしこうした方法は中央政府が監視を緩めれば、すぐ元に戻るなど効果の持続性に問題がある。

一方、株価はいったん市場が悲観的になれば相場が予想以上に下落する恐れがあり、株価に照準を合わせた政策は出しにくい。株価暴落は個人消費に水を差し、政府が目指す内需振興を妨げる懸念がある。温家宝首相はこの会議では株式相場の動向に触れなかった。

さて、上記の記事から読み取れること。それは何でしょう？もうお分かりの方もたくさんおられると思います。

これは、今、中国で盛んに言われている過剰流動性の問題なのです。過剰流動性とは何なのでしょう？

「お金の神様」と言われている邱永漢さんのコラムを読むとよくわかります。

GDPが3千ドルを超えるようになったら本格的な消費経済に突入するから、中国も沿岸都市を先頭に消費経済の時代に入ることについては、何回も強調してきました。

そもそもここまで到達するためには、ある程度の工業化がすすみ、輸出が輸入をオーバーして国際収支が黒字の方向に進んでいることが条件の一つになります。中国が「世界の工場」と認められるようになったことが中国に貿易黒字をもたらすようになったのです。それは中国が国際的にお金を儲けるようになったことですから、中国政府がこういう千載一遇のチャンスをしっかり握りしめて離すまいと思ったとしても不思議ではありません。日本もかつてはそうだったのですから。

しかし、貿易黒字が定着した上に、更に輸出に拍車がかかると、赤字になった国は黙ってはおりません。輸入をふやせと圧力もかかりますが、それ以上に為替相場の訂正を要求してきます。人民元を切り上げて貿易収入のアンバランスを是正できればいいのですが、輸出でお金の儲かりはじめた国はどこも必ず猛烈な勢いで抵抗します。あたかも折角、手に入れたチャンスを相手に奪いかえされるような錯覚を起してしまうのです。



実際はそのまま放置しておけば、赤字国だけでなく、黒字国はもっとひどい目にあいます。

輸出代金を外貨でもらうと、輸出した企業はもらった外貨を人民元に換えなければ、支払いができません。そのために外貨のふえた分だけ政府が人民元を発行すれば、人民銀行は手に入れた外貨でアメリカの国債などに投資して莫大な利息を稼ぐことはできますが、代わりに発行した人民元が大洪水になって国内の物価を押し上げます。物価も押し上げますが、急増した人民元は不動産や株などの資産に投じられて、いわゆる資産インフレをひき起こします。通貨の過剰流動性が中国国内の物価や資産

杭州の証券会社の様子。熱さが伝わっ に大異変をもたらすのです。  
てきます。

こうした過剰流動性が惹き起す副作用の方がずっと大へんな  
のです。

実はこの状況は日本も通ってきた道なのです。貿易黒字が定着し不動産や株にお金流れバブルに突入  
です。それに対して日銀は手を打つことが出来ませんでした。結果として超円高になり、国内物価も世界  
一の水準にまでなりました。日本人は金持ちになった分だけ豊かな生活を享受するようになったのでし  
ょうか？答えはNOでした。過剰流動性は日本に空前の資産インフレをもたらし、やがてその反動で多くの  
企業や企業に融資をした銀行の倒産を招き、そこから立ち直るのに20年もの歳月を要したことは皆さん、  
ご体験の通りです。

中国の経済が発展する過程で、中国人が「過剰流動性」を避けてうまく通り抜けることはできそうもあ  
りません。中国人は中国の経済の発展を見て、外国の資金がドッと中国に押し寄せてきて、そのために株  
が上がったり、土地が上がったりしているんだと他人のせいにしていきます。

それでも不動産への投資は高水準で推移していますし、工場の設備投資も一向に衰えを見せていま  
せん。それにブレーキをかけるべく金利を引き上げたり、不動産の短期売買に課税する措置を打ち出して  
いますが、それらの対策によって過剰流動性にストップをかけることは先ずできません。

過剰流動性がだんだん表面化して、不動産や株が動意を示してきたので、我慢のならなくなった庶民が  
銀行に預けていたお金を引き出して株を買ったり、ローンを利用してマンションを買うようになったのが  
昨年来の株高、不動産高の原因です。政府がいくら金利を引き上げても、この勢いを止めることはでき  
ません。ましてや世界の遊資がその動きに加わって一時的に株を押しあげてから逃げにかかったとしても、  
逃げたお金はまた有望な投資先を探がしてもっと集まってくるはずで。 「過剰流動性」をとめる妙薬  
は人民元の思い切った切り上げしかありませんが、それを躊躇し続ければ、中国経済の近い将来には資産  
インフレが待ち構えているだけです。資産インフレのプロセスにはもちろん、大金儲けをする人と小金を  
すり減らす多くの人たちの悲喜劇が見られます。しかし、資産に投じられるお金はふえる一方ですから、  
株をやる人はどこを避ければ損をかぶらないですむかを考える必要はありますが、株の上げ下げに一喜一  
憂することはあまりなさそうです。

いままでの歴史上、中国のようなまだ完全に開放されていない国に、お金が集中するような事はなかつ  
たです。・・・わかっているのは最近の貿易黒字の急増によって人民元はジャブジャブで、それ以降の  
事は政策によって大きく動くということ。その後どうゆう事が起こるかについては、起こってみないと分  
からない。

中国経済は強い部分と弱い部分は表裏一体。

■コラム

## ■宇宙を味方にする方程式

目からうろこです。大変面白い本です。



内容としてはこんな感じ。

- ・倒産する会社の方程式
- ・お金の困らなくなるための方程式
- ・がん細胞をなくす方程式
- ・乳がん、子宮ガン、卵巣腫瘍になる人の方程式
- ・病気にならない体を作る方程式
- ・お金の途絶えない財布のつくりかた etc...

是非ご一読を

■激ウマ!B級グルメ情報

先日、大和の友人からいただいた情報です。早速食べに行きました。場所は町田です。その名も

「小陽生煎饅頭屋」

と言う 中国上海名物の焼小龍包の店です。この情報をくれた友人とは約10年ほど前に一緒に上海の旅に出掛け、街角でこの焼小龍包を「うまいなあ〜」と言って食べた経験があります。



焼きたての小龍包です。この鍋はかなりの量の油があり、焼いているというより揚げてると言ったほうがよいかもしれません。

スープがあふれてきます。気をつけないとスープでやけどします。

ご主人の奥さんは上海の方で上海在住中、奥さんがお土産に買ってきた生煎饅頭（日本でいう焼小龍包）を食べてみると中から熱々のスープが出てきてビックリ！！旦那さんは朝から服を汚した上に口の中を火傷してしまいました。しかし、あまりにも美味しくて毎日食べていた旦那さんは「この味を日本に持って帰りたい」と奥さんと二人で上海の名店に頼み込み修行したそうです。

約1坪ほどの小さい店舗の中に5人も働いています。1人が鍋で饅頭を焼き、残りの4人が饅頭の皮作りとその皮の餡を詰めていました。全て現場で作っているところなど、本当に中国のようでした。それにしてもこれほど小さい店舗でこれだけの人が働いているというのは、相当売れるのだらうと思いました。

もし、町田行ったらチャレンジしてみてください。本当に美味しいですよ。



仲見世入口にあります。行列がすごい！

これが秘伝の肉餡だそうで、教えられないと言っていました。

■満開です。

この花は何の花だかわかりますか？夏に美味しい実なるフルーツです。



答えは・・・ 梨です。

撮影日は4月の中旬でこのマンスリーが届く1ヶ月前くらいです。桜がちょうど散るころです。こう見ると梨の花もなかなかですね。

■コラム

■ **アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!**

今、ブログの中では開発課・新人の「おのおのがた」の話題でもちぎり！  
うわさによると、新人「おのおのがた」は疲れを知らない野人らしい。

- ・ 所長のブログ (小田原H所長)
- ・ チーフの給湯室 (小田原Mチーフ)
- ・ 情報最前線 (海老名K所長)
- ・ 促進課目玉オヤヂ (販売促進課Hさん)
- ・ 促進課オヨヨ
- ・ 販促課オオクワ80mm
- ・ 産地直送！新鮮ネタ (海老名Nチーフ)
- ・ 販促課おのおのがた ついにデビュー！

こちらからどうぞ

<http://www.arclu.com>

今月は以上です。又、来月号も宜しく願います。

■2007年度のマンスリーNEWS

➔	2007.04	<a href="#">アークル マンスリーNEWS</a>
➔	2007.03	<a href="#">アークル マンスリーNEWS</a>
➔	2007.02	<a href="#">アークル マンスリーNEWS</a>
➔	2007.01	<a href="#">アークル マンスリーNEWS</a>

■マンスリーNEWS アーカイブ

➔	最新	<a href="#">マンスリーNEWSトップページ</a>
➔	2006年度	<a href="#">2006年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
➔	2005年度	<a href="#">2005年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>

→	2004年度	<a href="#">2004年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
→	番外編	<a href="#">マンスリーレポート番外編</a>

(c)copyright ARCRU co.,ltd All rights reserved.